

令和5年度 武蔵野小学校 研究構想図

研究主題「自ら思考、判断し、豊かに表現できる児童の育成」

副主題～児童が豊かに表現できるための授業の工夫～

研究仮説：児童が主体的に課題に取り組む仕掛けや児童が表現する場面の工夫（場や時間、話型等）を継続的に行えば、自ら思考、判断し、豊かに表現できる児童を育成できるだろう。

児童の実態：本校の児童は、発表することには積極的で自分の考えを話そうとする意欲はある。話すことが好きで友達や教師に進んで話しかける児童が授業内外でも多い。
ただし、相手に伝えようとするよりは思ったことを発表して満足しているが、相手には伝わっていないことに気付いていない。伝え方がわかっていなかったり、自分の思い付いたことをそのまま伝えてしまったりする児童が多く見られる。

ブロック	目指す児童像
低学年	人の話を最後まで聞き、自分の思っていることを相手に伝えることができる児童
中学年	基礎的な知識・技能や経験や既習事項から自分の考えをもち、表現できる児童
高学年	問題から自らの思考の道筋を考え、自分の状況を理解しながら、相手や場面に応じて進んで表現できる児童

